

委員会名	2022年度 第2回 生産技術委員会
開催日時	2022/7/7(木) 15:30~16:20
開催場所	株式会社 INPEX 会議室(Google Meet 併用によるハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	<p>【現地参加】</p> <p>吉岡委員長、桐山(運営幹事)、高居(運営幹事)、久々宇(運営幹事)、山本、巳波、上野</p> <p>【オンライン参加】</p> <p>下河原(前)副委員長、加藤副委員長、西崎、青木、深江、中田、中島、阿部、知識</p> <p>以上26名中、16名</p>
議事	<p>1. 委員長及び委員交代等の連絡とご挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回より運営幹事会社が INPEX から JAPEX(運営幹事は上記の通り)に変更、それに伴い、吉岡委員長が着任する。 ・ 下河原(前)副委員長が退任し、加藤副委員長が後任となった。 ・ JAPEX・久々宇委員が新たに着任した。 ・ INPEX・斎藤前委員長および岩間氏が退任した。 <p>2. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深江委員より幹事会議事概要(第87期2回、第87期3回)が報告された。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和3年度一般会計の収支報告があり、総収入20.0百万円、総支出19.2百万円、収支90万円は次期繰り越し金になる。 ✓ 第87回定時総会および春季講演会の内容については省略。 ✓ 令和4年度一般会計予算(案)について、△4.0百万円の赤字予算案が提示され、役員より事業費を下げる努力が必要との指摘があった。総会・春季講演会のハイブリッド開催による支出増が赤字の主要因となっており、前期よりの繰越金(26.8百万円)から充当する予定である。J-stage登録外注を2年分から1年分のみに変更したこと、石油開発ABC改修費用を石油技術協会基金より支出することで赤字額を削減し、収入20.5百万円、支出23.6百万円で収支△3.1百万円の赤字予算となる見込みである。 ✓ 会員の異動について、4月から17名減少し、1,641名となった。(※理事会報告にて、5月末時点での会員数は1,648名となっている。) ✓ 石油開発ABCの改修費用を石油技術協会基金から支出することについて、教会員の教育にもつながり、学会の顔ともいえるHP改修の重要性を鑑みて、改修の延期ではなく石油技術協会基金からの支出で対応する案が出された。本件についてメールで事前に幹事の意見を聴取し賛成多数、反対意見は無かった。 ✓ 主な収入は賛助会員費で当月収入計1,702千円となっており、主な支出は印刷費・発送費、事務費で当月支出計1,767千円、収支は△64千円となっている。 ✓ 秋季講演会テーマについては第2回の幹事会にて、脱炭素や、ウクライナ状況を鑑みたエネルギー安全保障・安定供給がキーワードとして挙げられ、第3回の幹事会にて、キーワードを取り込む形で「エネルギー安定供給とカーボンニュートラル推進の両立を目指す社会における石油開発業界の持続的な役割」と決まった。昨年度とテーマは一見似ているが、昨

年は「課題」としていたのが、今年度は「役割」というのを強調する方向でタイトルを短くし、内容も民間の役割を強調するような方向としている。

- ✓ 特別講演会について、現在、探鉱技術委員会で秋の地質見学会の実施を検討中である。（オンラインでの実施等について質問があったが、詳細について 6/6 の幹事会時点では検討中である。）
- ✓ その他の連絡として、石油技術協会と日本地下水学会との共催ワークショップの提案がなされており、開催する方向で取り組んでいる。ただし、赤字予算のため出費の回避と事務局の負担増が無いように取り組む。
- ✓ 会長が総会を経て、岩田氏→小寺氏に交代した。

3. 理事会報告

- ・ 吉岡委員長より第 87 期第 2 回理事会議事概要の報告がされた。

- ✓ 承認事項 2 点(会員数の異動と石油開発 ABC の改修費用)については幹事会報告と重複しているため、省略。
- ✓ 令和 4 年 5 月末現在の会計報告について、春季講演会の会場費として、オリンピック記念青少年総合センターへの支払いが 5 月にあった旨、またオンライン作業での費用はこれから請求を受け、支払う旨の説明があった。
- ✓ 第 87 回定時総会・春季講演会について、春季講演会のオンラインでの参加者について、6/7 の総会は 150 名、6/8・6/9 の春季講演会については合計 365 名、6/20 から 6/30 のオンデマンド配信期間は講演会のセッションに 157 名が参加した。通常の現地開催では 70 名程度の参加と比較すると、多く参加していただいた印象があった。
- ✓ オンライン地質見学会については 52 名の参加となっており、これも通常の開催と比較して、参加者が多い印象を受けた。
- ✓ 幹事会にて提示された、秋季講演会のテーマが長すぎるので、仮テーマとして「エネルギー安定供給とカーボンニュートラル推進の両立を目指す社会に向けて～石油開発業界の持続的な役割～」としている。また、東大小林氏より、東京大学では 500 名分の Zoom ライセンスが使用可能である旨、講演会でのオンライン中継の協力について提案があり、費用を抑えた開催に貢献できると考えられる一方で、春季講演会のオンライン参加人数を鑑みると、人数制限について余裕代が少ないことが懸念される。
- ✓ 日本地下水学会とのワークショップについて、東京大学・徳永氏を通じて CCS に限定せず、「相互連携によるカーボンニュートラルおよび持続可能な社会実現への貢献(仮)」をテーマとして、2023 年春に実施予定である。
- ✓ 岩石-水相互作用国際会議について 2023 年 8 月に仙台にて開催予定である旨、東北大学・土屋氏より情報共有があった。

4. 2022 年度春季講演会 シンポジウム関連

- ・ 高居委員より春季講演会生産部門(個人講演・シンポジウム)の概要報告、およびアンケート結果とシンポジウム査読状況について報告がされた。
- ✓ 個人講演について、現地参加者数が第 1 会場は 70 名、第 2 会場が 15 名と偏りが見られた。これについては第 1 会場が 1 階にあり、他部門の会場にも近いということに対して、アン

ケート結果のコメントにも記載があったが、第2会場が4階にあり、他の会場から離れていたことが、第2会場の参加者が伸び悩んだ要因と考えられる。そのため、優秀発表賞の投票数にも影響が出ていると考えられ、来年度以降の採点方法についても検討する必要があると考えられる。

- ✓ シンポジウムについて、現地参加者数は40名となっており、他部門のシンポジウムと比較すると少なかった。一方で内容については盛況な会となったことが所感として挙げられる。
- ✓ アンケート結果について、20代・30代・50代・60代からの総数18名分の回答を受領済みである。個人講演に関するアンケートについて、ハイブリッド開催については好意的な印象を持たれている様子であるが、実開催での受付が煩雑である旨のコメントがいくつかあったほか、チャットでの質問を希望する旨のコメントも見受けられた。シンポジウムに関するアンケートについても、チャットでの質問を希望するなど個人講演でのアンケート内容と同様であるが、登壇者が1人だと登壇者個人の負担が大きいのではないかといった旨のコメントがあった。また、次回のシンポジウムでのテーマについてもコメントをいただいております、これらのコメントについては来年度以降の課題と考えている。
- ✓ シンポジウム査読状況については、下河原(前)副委員長より講演者の皆様に原稿依頼を行っていただいている。これらの進捗については加藤副委員長に引継いでいただく予定となっている。今後、運営幹事より査読者を各委員に割り当てる予定(7月下旬～8月上旬に個別にて連絡予定)であるので、各自ご対応いただきたい。
- ✓ シンポジウム小委員会の委員任命について、昨年と同様、運営幹事より個別に連絡する予定である。

(以下、質疑・議論事項)

- ・ 参加人数と比較してアンケートの総数が少ないと考えられるため、今後どのようにアンケートを集計すべきか要検討である。下河原(前)副委員長より、昨年度はオンライン開催であったため、アンケート記入を誘導できたが、今年はハイブリッド開催であり、QRコードを用いてアンケート記入を促したが、その誘導が昨年よりも弱かった印象があり、誘導の仕方について改善の余地があるとのこと、また、アンケートサイトについても確認し辛い点があったため、事務局との相談と検討が必要である旨のコメントをいただいた。
- ・ ハイブリッド開催についてはおおむね好意的ということだが、否定的な意見はあったか？→高居氏より特に反対の意見等は見受けられなかった旨、回答した。
- ・ 次回以降もハイブリッド開催するかどうかについては赤字である予算状況も考慮し、工夫する必要がある。

5. 2022年度春季講演会 個人講演実施報告

- ・ 桐山委員より個人講演の協会紙推薦発表の審査結果について報告がされた。
- ✓ 協会紙投稿発表について、得票数の多い順に6件選定した。ただし、INPEX・難波氏の発表については既に投稿済みのため、本件からは除外している。選定に関する意見が特に無い場合、7/11の週に発表者へ投稿依頼の連絡を実施する予定である。
- ✓ 学生優秀発表賞の協会紙投稿について、早稲田大学・鈴木さん、九州大学・植田さんの講評依頼をそれぞれ京都大学・村田先生、INPEX・山本さんに連絡している。

6. 次回以降の委員会開催日・場所について

- ・ 今回の委員会で初めてハイブリッド開催を実施し、運営幹事としては大学での開催も含め、今後もハイブリッド開催を希望するが、今後のコロナ感染状況を確認した上で開催方法を決定し、各委員に連絡する。
- ・ JX でのハイブリッド開催について、9/1 の会議室の提供およびオンライン対応は可能である。(オフィスビルの管理方針上、会議室の 50%以内、10 名程度での入室となるが、今後のコロナ感染状況によって方針変更の可能性あり。)
- ・ 7/7 現時点で秋田大でのハイブリッド開催についても対応が見込めるが、今後の感染状況も含め、相談したうえで開催方法を決定する。

	2022(案)		2021(実績)
第1回	5月 12日 (木)	JOGMEC→オンライン	JOGMEC→オンライン
第2回	7月 7日 (木)	ハイブリッド(INPEX)	INPEX→オンライン
第3回	9月 1日 (木)	JX	JX→オンライン
第4回	11月 4日 (金)	秋田大	秋田大→オンライン
第5回	12月 2日 (金)	東北大	東北大→中止
第6回	1月 12日 (木)	CIECO	CIECO→オンライン
第7回	3月 2日 (木)	JAPEX	JAPEX→オンライン

7. 話題提供について

話題提供について、今回は特になし。過去には INPEX の地熱プロジェクトについて、概要報告をした実績がある。今後、会場を手配いただく会社から話題提供をしていただけると助かる。

以上